



震災支援派遣報告

5月1日～5月7日 仙台



任長	責任	委員	行委
任部	員宣	責伝	行集
掃合	清組	京働	東京
部支	支	支	支
2011年6月20日 第83号			

《荒木 健》

今回の東日本大震災復興支援にあたり、皆様の暖かいご支援・ご協力により、何も心配することなく、万全の状態での職務に取り組むことができたことを、心より感謝申し上げます。

作業一日目、仙台市若林区の現状を見たとき、この未曾有の震災の甚大な被害を目の当たりにしました。倒壊し流されてしまった家屋、至るところに瓦礫と化した車両が転がり、目の前の惨状に言葉が見つかりませんでした。

そして、この目の前の現状から復旧・再建していくには、膨大な時間と労力が必要であり、継続し

東日本大震災被災自治体支援で5月1日(日)～7日(土)、仙台市に派遣された東京清掃労組文京支部の仲間からの報告集

て支援活動やボランティア活動などを行っていくことが重要であると感じました。

私たちができることは微々たるものであると思いますが、今できることを全力でお手伝いできればという気持ちで、職務を遂行してまいりました。

矢島さん、佐藤さん、3人で協力し、毎日時間を惜しみ、疲れを忘れ、被災者の家のゴミや瓦礫を、少しでも多く、一回でも多く片付けようと、一週間という短い間でしたが、そのなかでできることを、精一杯やり遂げることができたのではないかと感じています。

今後も復興支援は必要であり、第4次隊、第5次隊へと続いていくと思われるので、今回の経験と教訓を踏まえ、次回の活動にいろいろな面で活かしていけたらと思います。

《白山重美》

東日本大震災復興支援要請が東京都に来て、それが各区に降ろされ、わが文京区は、第3次支援部隊として、5月1日から5月7日までの期間が割り当てられた。文



京区は課長会の副会長ということ
で、作業員、運転手、車両のセッ
トだけでなく、隊長、総括責任
者、作業責任者、運転部門責任者
および管理係と、総勢8名の参加
となった。

わたしは、作業責任者というこ
とで参加した。わたしと、千葉作
業係長、島崎技能長3名は、第2
次隊からの引き継ぎということ
で、他の皆さんより一日早く出発
し、引き継ぎ作業に入った。

引き継ぎ事項の合間に災害地を
視察したが、それは口にできない
壊滅的な被害であった。一口に復
興といっても、何十年もかかりそ
うな被害である。その惨状を見
て、我々も少しでも役に立てれば
との熱い想いが込み上げてきた。

作業は、第1次、2次隊が作業
した若林地区の他に、新たに宮城
野地区が加わった。そのため、急
遽、宮城野地区を担当してもら

ことになった板橋区の作業係長、
技能長3名が新たに召集された。

若林地区の作業は、二通りの作
業パターンであった。一つは、民
家からの被災ごみの収集運搬であ
る。もう一つは、仮置き場から
（住民が持ち寄ったごみを野球場
のような広い場所にそれぞれ分別
したごみを、一時的に置いてある
場所、可燃物は清掃工場へと搬
入、それ以外の物は広大なごみ置
き場への搬入、という作業内容で
ある。

私たちはまず3人一組のチーム
を3つ作り、それを班にし、その
中から班長を一人選出してもら
い、指示伝達をまかなくてもら
うことにした。

また今回は、23区だけでなく、
市町村の自治体、関連協が持ち寄
っている作業車両もあり、それぞ
れ様々であったため、

(3ページに続く)



(2ページから続く)
それらの車両を適材適所に配置する必要があった。市町村、関連協の車両は、平ボディ車、アームロール車等が主で、プレス車が1台しかなく、作業上、仮置き場へ配

車することにした。仮置き場の作業計画は、現場監督の指示に任せることにしたため、私たちは、工場への道と、捨て場への道の地図を作成し、渡した。そして、民家のごみ収集班は、若林事業所に集合し、担当職員から、その日一日だけの地図を渡され、その地図は民家が載っている詳しい地図で、その民家に可燃0・5台等、記載されていた。

初日は、事業所の職員が道案内をしてくださり、大した混乱はなかったが、二日目から各々で収集していくので、大変な作業になった。しかし、皆さん優秀な職員で、道もすぐに覚えていただき、スムーズな作業の流れが、派遣期間中日を過ぎたあたりから生まれてきた。

作業は大変過酷で、厳しいものであった。水に浸かって、泥まみれになり、重たくなった物もある

り、また民家の庭先まで車両を乗りつけようとすると、沈んで右往左往した車両もあった(文京区の車両)。それと、埃もすごく、一日2回はマスクの交換が必要であった。

作業も終盤頃には、ごみも残り少なくなってきた。しかし、ごみを片付け排出する人がいないため、排出してあるごみがないだけで、決してごみが片付けられてなくなつた訳ではなかった。

また今回、東京都から無線機を車両一台につき一つ与えられたので、班同士の連絡に大変効果的に作業が進められた。

わたし自身、ほとんど仕事らしいことができなかったが、それを皆さんがカバーしてくださり、本当に頭が下がる思いと、皆さんの意識の高さ(被災地を助けてやるぞという気持ち)に驚くとともに、参加した職員に感謝します。

一週間、長くもあり短くもあつた。終わつた？ 私が派遣された一週間は終わつた…。しかし、被災地は復興に向けて動き出したばかりだ。まだまだ、手付かずの地域もある。軽々しく

終わつたとは言えない。今始まつたばかりだ。

《佐藤国明》

今後、復興支援が行われるならば、何度でも参加したいと思う。

《島崎一郎》

2011年3月11日、東日本大震災が発生。我々も過去にない地震を経験した。

自分たちの安全を確認しながら次の瞬間、テレビに釘付けになる。地震の規模の大きさ、津波の威力・破壊力に誰もが声を失つた。

それから約一ヶ月後、仙台市から東京都に対し、災害ごみの処理について支援要請があった。

私自身、「生涯一度、人のために役に立てることがあればと…」

そして、仙台市をはじめ被災地全部の復興のため、少しでも足掛かりになれば！

最後に、派遣されるにあたり、多くの方々のバックアップに、深く感謝申し上げます。

と思っていた矢先、上司から災害派遣の話があり、即決しました。

いよいよ先遣隊として、4月30日朝6時に、文京清掃事務所を仙台に向け出発し、現地の第2次隊との引き継ぎ事務を行い、被災地を視察しました。

復興支援するエリアは、仙台市若林区で、仙台東部道路を境に、目を疑う光景が飛び込んできました。海側は、想像を絶する悲惨な状況で、ただただ呆然とするばかりで言葉になりません。

(5ページに続く)





(4ページから続く)

5月2日、総台数35台(うち13台宮城野区に配車)職員数62名を連れ、若林環境事業所に行き、作業開始。しかし、午前・午後作業1回で初日終了。仙台市職員は、意外とスローペースで何のためらいに来ているのかと少々、不安が募りましたが、3日、4日と地区ごとに作業計画があり、予想以上に順調でした。

しかし、後半に入ると仙台市職員が我々のペースに追い付かず、仕事量が激減する傾向があるため、白山技能長とともに仙台市側に作業方法を戸別訪問に切り替え、収集作業を行うことを確認しました。

最終日についても期間中に入った地区に再度車両を入れ収集作業を行い、午後からは、未収集の地区に全車両を投入し、作業を終了しました。

このことが功を奏し、仙台市の予想をはるかに上回る結果に繋がりました。

最後に、若林環境事業所に作業終了の挨拶に行き、市職員の方々から「このご恩は一生忘れません。復興は、単年では不可能かもしれませんが、かならず元通りになります」と、力強い言葉が帰ってきました。

今回の災害派遣で感じたことは、被災された東北3県はまだまだこれからが正念場です。いまだに報道されていない手付かずの地区もあるのも事実です。今後、このような災害復興支援があったときは、皆さんも積極的に行っていただきたいと思います。

また、第3次隊の23区職員、市の職員、業界団体の方々の方々のやる気、本気、熱意に「ありがとうございます」と言いたいと思います。



《矢島明弘》

3月11日に発生した東日本大震災にともない、仙台市から東京都を経て、各区に支援要請があった。それを受けて文京区から、第3次隊隊長になった田中所長を始めとする8名のメンバーが、5月1日から8日まで、仙台市若林区および宮城野区に災害支援のため派遣された。第3次隊全体としては、東京都の14区および多摩地区の各市町村、関連協から約90名が派遣された。

5月1日には、早朝から文京清掃事務所本所において出陣式があり、20名以上の多くの方々が駆けつけてくださった。桐田委員長および成澤区長から、励ましの言葉があり、それを受けて、派遣される私たち一人ひとりも決意表明を行った。

出陣式を終えて直ちに、運転手

の荒木（健）さんと佐藤（国明）さんは、そのまま清掃車に乗って仙台市に向かった。前日、先発隊としてすでに仙台に向け出発した白山さんおよび島崎さん以外の、田中所長を始めとする4名は、区政会館で他区の派遣メンバーと合流し、バスに乗り込んで出発した。

東北自動車道を使って、時々休憩をとりながら、約5時間かけて、第3次隊の宿泊所である「茂庭荘（もにわそう）」に15時半頃に到着した。その日は休息となり、翌日からの作業に各々備えた。

二日目は、朝6時に起床し、朝食を取り、作業服に着替え、7時半ごろに各々、各区の清掃車両に乗って、宿泊所から若林環境事業所に向かった（第3次隊は、若林区および宮城野区を担当し、

（7ページに続く）



(6ページから続く)
 文京区は若林区担当)。8時には若林環境事業所に到着し、9時頃からは、仙台市の清掃職員による作業に関する説明があった。その後、仙台市清掃職員の連絡車と共に現場に向かった。

作業現場に指定されたエリアは、高速道路の先にあった。その高速道路も震災時、津波が直撃し、道路上まで海水をかぶったと聞いている。一方で、その高速道路がいわば「防波堤」の役割を果たし、津波の力を弱め、高速道路より内陸部の被害を緩和したそうである。

エリア到着後始めに、半壊した民家付近で、山のようになった瓦礫を一箇所で集中して収集した。

捨て場(仮置き場)にされた荒浜という所に向かうにつれ、荒れ果てた光景が目に入って来た。その光景を見て、何も言えない状態でした。車や枯れた松の木が散乱し、家屋も、土台しかない状態の家しかなかった。本当に、津波の凄さに驚いた。荒浜には、海岸沿いに幅20メートルの松の防風林があったそうだが、松の木がポツンポツンとところどころに見えるだ

けで、防風林としては見る影もない状態であった。

午前中の仕事も終わり、事業所に帰って昼食をとった。午後も、そのまま出発し、午前中の残りのエリアを収集した。午後3時半頃を目処に仕事を終え、宿泊所に戻った。2日目はそれで終わり。

3日目から6日目は同じような流れで作業をした。任されたエリアにどんどん入って、ボランティアの方々が家々から出てきたゴミなども収集した。だんだんと慣れてきたので、無線で連絡を取り合いながら、その都度必要な場所に移動しながら、収集を続けた。

あつという間に6日目を迎え、無事に仕事を終えることができた。

7日目は、朝に第3次隊長(田中所長)から、今次の派遣業務を振り返っての挨拶があった。

(8ページに続く)



(7ページから続く)

これをもって、第3次隊は解散となり、一週間過ぎた宿泊所「茂庭荘(もにわそう)」に別れを告げた。安心して寝起きできたので、一週間、きちんと災害支援活動に従事することができたと思う。そういう意味で、「茂庭荘(もにわそう)」には大変お世話になった。ありがとうございます。

清掃車両等は、おのおのの車庫に向かって仙台を後にした。残りの職員はバスに乗って東京に向かった。バスは14時過ぎに区政会館に到着し、そこで最終的に解散となった。

区政会館で解散後、文京区から派遣された8名全員が文京清掃事務所本所に合流し、皆さんの前で帰還の挨拶をした。

今回は大勢の方に見送られ、そして迎えられ、とても嬉しく思い

ました。皆さんの支えがあつて、無事に帰ってくる事ができました。本当にありがとうございます。

東日本大震災は、巨大地震と大津波で受けた被害があまりにも大きく、復興にはまだまだ時間がかかりそうなので、多くの支援者の力が必要かと思えます。そうしたなか、微力ながら、少しは現地の被災者の方々のお役に立つことができましたのではないかと感じています。

宮城県仙台市への職員の派遣

東日本大震災に伴う被災自治体への支援を行うため、宮城県仙台市に以下のとおり職員を派遣。

派遣先 宮城県仙台市

派遣内容

2011年(平成23年)5月1日(日)～5月7日(土)

【支援内容】

仙台市若林区内などで排出された生活ごみ等を集積所から海岸沿いの仮置き場(もしくは市内の清掃工場)へ収集運搬する作業

【派遣人数】8名(清掃職員等) (※文京区HPより)